



やらまいか

クラブテーマ：原点回帰

会長/金田 征宏 幹事/度会 尚志 会報委員会/廣田 篤・中村 嘉輝 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局/豊川市豊川町辺通 44 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第6回 通算1443回 平成28年8月9日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	7/26 修正出席率
		62名	40名	70.2%	94.6%

ゲスト：愛知大学文学部准教授 近藤 暁夫さん 答礼人形ミス愛知を里帰りさせる会事務局長 鈴木 太さん
答礼人形ミス愛知を里帰りさせる会副事務局長 夏目 勝弘さん ビジター：(なし)

★会長あいさつ

金田 征宏 会長



こんにちは。先週の納涼例会に大勢の皆さんにご出席を頂きましてありがとうございます。親睦委員会の皆

さん、素晴らしく楽しい企画をして頂き、リオ五輪の雰囲気を出して頂きました。リオ開幕3日前で、その興奮が残ったままりオ五輪が始まりました。

リオ五輪に出場している豊川高校の今井選手は、競泳女子 200m個人メドレーで出場しています。今朝行われた予選を通過しました。今日が準決勝で、10日が決勝という事で頑張りたいと思います。

8月7日に豊川市平和祈念式典に出席をして参りました。豊川海軍工廠の歴史と豊川市の誕生の歴史も知りました。昭和20年8月7日は、今日の様な快晴だったそうです。豊川海軍工廠上空には、B29が124機飛来し、豊川海軍工廠は壊滅状態だったそうです。今も世界各地で紛争など起こっています。平和な世界になることを願っています。豊川海軍工廠展が、8月31日まで豊川市桜ヶ丘ミュージアムで開催されています。是非、お出掛け頂ければと思います。

本日、第1回指名委員会が開催され、正副委員長が決まりました。委員長に滝下パスト会長、副委員長の小野パスト会長です。どうぞ、宜しくお願いします。

★指名委員長あいさつ

滝下 勲 委員長



クラブ細則、第3条理事及び役員選挙の第1節により、指名委員会が設置され、本日、第1

回目の指名委員会を行いました、委員長に選任されました。

来る12月6日の年次総会に向けて、次年度の理事役員選任の作業を行ってまいりますので、よろしくお願い致します。会長ノミネー候補者の基本的条件について皆さんにご案内します。①ロータリー歴10年以上(就任時) ②理事役員経験3回以上 ③過去5年間の年間出席率平均70%以上 但し、この条件を満たしていなくても、適任と認められた場合には候補者にあげることが出来ます。今後、総会に向けて慎重審議して参ります。指名委員会の皆さんは、個人のプライバシーに関わりますので、会議の内容等一切口外せぬようお願い致します。また、会員の皆さんもご理解ご協力をお願い致します。

★幹事報告

大島 嗣雄 幹事

例会臨時変更のお知らせ
次回例会について
蒔田沙弥香さん応援募金協力のお願い

★委員会報告

ゴルフ同好会 (山本博史幹事長)
第1回コンペ開催のお知らせ

★外部講師の卓話

里帰りさせる会からの御礼の挨拶

鈴木 太事務局長

夏目勝弘副事務局長



こんにちは。皆様方のご支援のお陰で、桜町小学校、西郷小学校、御津南部小学校での出前授業を開催することができました。新聞やテレビでも取り上げて頂き、とても反響が良くて、スタートとして弾みが付きました。

7月9日に第1回のイベントを愛知大学で開催し、第2回目のイベントは、12月3日に中京大学で開催することになりました。こちらロータリークラブ様よりご支援いただけるとのことで、非常に感謝しております。ありがとうございました。

講師の紹介

小野喜明パスト会長



本日の講師をご紹介させていただきます。愛知大学文学部の准教授、近藤暁夫先生です。合わせて、答礼人形ミス愛知を里帰り

させる会の副会長にもなって頂いております。

先日行いました7月9日の第1回イベントは、愛知大学で主催をして頂きました。費用も愛知大学を出して頂き開催することができました。今日は、7月9日の報告も兼ねて、答礼人形ミス愛知と青い目の人形についてお話をお願いしております。よろしくお祈りします。

卓話「答礼人形と青い目の人形

～ミス愛知の里帰りに向けて～

愛知大学文学部 近藤暁夫氏



こんにちは。本日は1,443回の例会ということで、歴史あるロータリークラブにお招き頂きましてありがとうございます。

ございます。

小野喜明さんが答礼人形ミス愛知を里帰りさせる会の会長で、私が副会長を務めております。ただ、実は特に答礼人形などに関する研究をしている訳ではありません。本日来られている夏目勝弘先生の方が、この活動に関しては詳しいのですが、私の方で話をさせていただきます。なお、私は名古屋市生まれで、ご縁がありまして2011年より愛知大学文学部で地理学を教えています。

先日8月7日の豊川海軍工廠に爆撃のあった日に、学生を引率して海軍工廠跡地に行って参りました。豊川駅から門前を通過して、桜ヶ丘ミュージアムで海軍工廠の展示を見ました。日本には博物館法という法律があり、そこには博物館は原則入場料を徴収しないと決められています。しかし、現実に入場料無料と言う博物館は殆どありません。その点、桜ヶ丘ミュージアムは、常設展に加えて、海軍工廠展、これは特別展で、世間の感覚では無料というのはありえない水準の展示内容なのですが、それでも無料にしているという事で、豊川市の見識を感じます。

ミュージアムから海軍工廠跡地まで学生と歩きました。こんなに暑い中、お国の為と思ってろくな食べ物も食べずに働いて、空襲に遭われた方々。大学の目の前には時習館高校と豊橋工業高校があり、その生徒も学徒動員されて犠牲になったことを伝えました。戦争は、どれだけ愚かなものかという事を学生たちが少しでも体感してくれればと思います。野球場の隣の平和の像にも行って参りました。そこに豊川市の「平和都市宣言」の碑がありますが、この平和都市宣言は非常に意義深いものだと思っております。豊川市には陸上自衛隊の駐屯地があります。自衛隊がある市が、

平和宣言をされていると言うところに、日本は専守防衛だ、自衛隊はあっても戦争はしないということを再確認させる深い意味があると思います。

本題に入りますが、青い目の人形と答礼人形に関しては、夏目先生が本を書かれており、そこに詳しく載っておりますので、今日は少し違う観点からのお話をさせていただきます。

日本列島の人々は、土偶の時代から人形に深い思い入れを持ってきました。日本民俗辞典によれば、ニンギョウと呼ばれるのは室町時代になってからです。それまではヒトガタと呼ばれ、呪術の為の物、基本的には、病災除け、豊穰、子孫繁栄などの祈祷、あるいは呪詛のための形代でした。例えば、贖い物の人形、流し雛です。そこに全ての嫌なものを詰め込んで、代わりに犠牲になって流れてもらうというもので、これなどは原初的な人形の利用だと言えます。それが段々と立派になり、やがて捨てるのは忍びないことから、祝儀人形や守護人形になりました。これは愛玩の対象ですね。ただ人形への霊的な信仰は、現在でも“てるてるぼうず”などの形で残っています。日本列島に住んできた人たちは、人形をととても大切にし、その超自然的な力を信じる、一面とても優しい心を持った人たちです。現在でも、「キャラクターもの」なども含めて、世界的にみても非常に人形のバリエーションが豊かです。これが、答礼人形を通じた運動が盛んになっていった文化的背景であると思います。

青い目の人形と答礼人形を通じた交流の直接の背景として、20世紀前半まで、日本が世界有数の「移民送り出し国」だったことがあります。アジアの国々は、どこも移民を送り出していました。中国が特に有名で、世界中にチャイナタウンがあります。日本からの移民の送り出しの大部分は、旧植民地、北米・ハワイ、南米です。旧植民地には、現在ほとんど日系の方はおられません、北米・ハワイ、さらに今オリンピックが行われている南米には今も大きな日系のコミュニティがあります。

先日、イギリスのEU離脱を問う国民投票がありました。理性的に考えれば、経済的にも国際関係的にも損をすることが見えており、離脱は明らかに割の合わない選択でした。それでも離脱を選択した要因として、移民、難民の受け入れへの感情的な反発があったと言

われています。いつの時代も移民に対してホスト国の社会は必ずしも好意的な反応をしません。

翻って日本移民、これは出稼ぎ男性が中心でしたが、基本的に大変に優秀だったのです。アル・カポネのようなギャングやチャイニーズ・マフィアのような組織は殆ど生まれず、非常にまじめに働きました。まじめに働くと言うことは、それだけ地元の人たちの職を奪ってしまうという事です。それが、特に北米において様々な経済的、文化的な摩擦を引き起こしました。

近代日本における海外での出稼ぎは、日本政府とハワイ王国による官約移民を着に本格的に始まり、排日移民法（1924年）の制定までに37万4,134人が北米地域へ渡りました。自由なる白人およびアフリカ人とその子孫でなかった日本人移民は、1952年まで米国市民権を取得できない「帰化不能外国人」として差別的待遇を受けていました。

このように、20世紀の初頭には、アメリカに大量の日系移民が渡って、その結果、受け入れ先の社会と摩擦が起こりました。それに心を痛めたのが、ギューリック1世でした。この方が青い目の人形を贈る運動の主催者です。1888年に来日され、1913年にアメリカに戻られています。折しも1924年の排日移民法を頂点として、様々な形の日本人排斥運動が行われていきました。心を痛めたギューリック博士が、日本人に人形を愛する文化があることに着目し、日本の雛祭りに合わせて12,739体の青い目の人形が日本に贈られたということが、この物語の始まりです。

ギューリックは、宣教師で、学者でもありました。同志社大学、京都大学でキリスト教を教えています。そのモットーは「国際親善、人と人との理解は大人になってからでは遅い」です。また、子どもの世代からの国際交流を重視し、「世界の平和は子どもから」をスローガンに掲げて、このような運動を行いました。

アメリカでは、ギューリックさんの働きかけに答えて、小学校の男子を中心に募金活動で資金を集め、女子と母親たちが衣服を手作りしました。人形は1万3千体もありますので、大部分はアメリカに普通にあるような人形になります。1万3千体の8割は、アメリカ東部州から贈られました。日系移民が居たのは西部州でしたので、少し地域的なズレが

あります。何故、このズレがあったのかは、私はまだ詳しく調べておりません。

青い目の人形の特徴として、全ての人形にパスポートと手紙が付属しています。現在でも、パスポートを見れば、人形の出自が分かります。青い目の人形は、戦時中かなり数が失われましたが、現在においてもパスポートさえ残っていれば出自がわかるので、これをして参考に日本各地に埋もれている青い目の人形を探す活動ができるようになっていました。

ギューリック自身は人形に対して返礼不要としておりましたが、日本の伝統は贈り物には返礼するというので、渋沢栄一という有名な経済人が中心となって1銭募金を集めて、58体の日本人形を当年のクリスマスに合わせて贈りました。これを「答礼人形」と言います。3月に贈られて、12月に返送しているのはすごいスピードなので、事前に何かあったのかもしれませんが。人形の拵えは1体あたり約350円で、現在のお金ですと250万円～300万円ぐらいになります。58体すべてに「ミス北海道」「ミス青森」というように都道府県と6大都市の名前が付いており、地域代表の性格があるのが特徴でした。全米を巡回して、大歓迎を受けて、各地の博物館等に収蔵されました。

渋沢栄一というのは、明治時代に裸一貫であそこまで上り詰めた人です。ですから、現在の感覚だとあくどい事も結構やってきたと思われる。ですが、同時代人、例えば岩崎弥太郎と違ってあまり悪く言われないのは、このような運動もしっかりとされたからだだと思います。この精神は、現在も「渋沢栄一賞」の授与など、様々な形で現場の経済人たちに受け継がれています。

戦争を経て、現在確認されている青い目の人形は、全国で300体余りになりました。愛知県内には、349体が贈られたことが確認されていますが、残存は9体と個人所蔵の1体です。個人所蔵は長野県に贈られたものが、紆余曲折があり名古屋市のコレクターの手に渡ったものです。9体のうち7体が東三河に残っていました。東三河の人たちが守って来られたということですね。

青い目の人形のほとんどは、小学校や幼稚園に贈られたのですが、敵国の人形として破壊されました。また、空襲等で市街地にあった小学校の人形は、ほとんどが焼けてしまいました。沖縄県には1体も残存していません

が、これは沖縄戦の影響だと思われます。少数の人形は小学校の先生などの「人形は罪がない」という考え方を持った大人と、特別に愛着のあった生徒とその親によって残りました。しかし、残っているのは、人形全体の3%にいかない状態です。

ここで「叩き壊せ青い目の人形」という当時の新聞記事を紹介します。青森県の事例です。これには具体的に人形を壊していくプロセスが書かれています。生徒に人形の扱いについてアンケートに取っています。その結果、壊すや焼くとの回答が8割ぐらいで、送り返すが1～2割、助けると答えたのは0だったそうです。これを見ると教育は非常に大事だと思います。この叩き壊せと言った子ども達は、決して悪い子ではありません。青い目の人形を心から歓迎した子どもたちと同じ、すごく良い子です。すごく良い子だから、時代風潮の期待に応えて、叩き壊せと言ったのです。だからこそ、教育、そして大人たちがこんな時代風潮をつくらないという努力が、本当に大事です。

しかし戦争は終わりました。1970年代から青い目の人形を探す動きが全国で活発化します。また、現在でも、ギューリックさんのお孫さんのギューリック3世が健在で、数学の先生をされています。この方が、祖父の跡について「新青い目の人形」を日本各地に贈られています。そして、新たな日米親善の活動並びに平和を考える機会として、答礼人形の里帰り展が各地で開催されています。2016年中に41体までが里帰りを果たす予定で、ミス愛知は42体目になるかどうかという状況です。順番としては、かなり遅いですが、それは最近やっとミス愛知が確認されたからです。見つけたので、ようやく里帰りの運動が始まっているという事になります。

各地の里帰り運動を少し紹介します。まずはミス三重の里帰りです。2009年にネブラスカ州から里帰りを果たしました。三重県内の青い目の人形9体も合わせて展示しました。三重では、パンフレットを作って、県内全ての小学校児童に配布しました。かなりの規模の活動ですが、特別に教育委員会が動いた訳ではなく、学校の先生方が自主的に作って、教材として活かしたそうです。また、三重の場合は、若い世代の人達が、自分たちの顔写真を集めてミス三重の顔を再現するなど、新しい感性と技術を用いた展開をしました。こ

のようなことは三重に限らないのですが、人形を先人が残してくれたことが次の世代に受け継がれて新しい形に展開されていると言えます。全国各地で、このように人形を縁としたさまざまな運動の展開がされているという事は、世界的に見ても希有な例です。人形が贈られてきてほぼ90年になります。その間に断絶はありましたが、現在に至るまで続いている、しかも太平洋を挟んでいるというところが特筆されます。

次に、今年の春に行われたミス静岡の里帰り展の様子を紹介します。本名は「富士山三保子」と言いますが、日本名はすごく発音が難しいらしくて、アメリカではとりあえず「ミス静岡」にしておこうということだったようです。ですので「ミス愛知」も実は本名があるのだと思われませんが、その辺りは、まだ発掘が進んでおりません。このミス静岡の里帰りさせる会の会長は、川勝平太静岡県知事です。

次に、答礼人形「ミス愛知」について説明させていただきます。ミス愛知は、戦争中にテネシー州のナッシュビル美術館に保管との記録がありますが、実物は行方不明でした。どのような紆余曲折を経たかは分かりませんが、2013年にミネソタ州の日本人形収集家のペイトさんが購入した日本人形が、鑑定の結果ミス愛知ということが判明しました。この過程には夏目先生が深く関わっておられます。

ミス愛知の仕様は、平田郷陽（のちの人間国宝）が製作された答礼人形5体のうちの1体です。平田さんは愛知の方ではありませんので、ミス愛知といっても愛知生まれというわけではありません。人形の吉徳の青木勝さんの受け売りですが、日本人形としては写実的な顔立ちが特徴です。当時の最高級品で、現在ではもっと価値が高いです。再発見時には、西洋人形のカツラと花柄のワンピース姿だったそうです。それでも良く生き残ってくれました。今はペイトさんの配慮で、着物姿になっています。早く里帰りさせてあげたいものです。

ミス愛知を里帰りさせる会の実行委員会は豊川で設立されました。ミス愛知という名からすれば、県や名古屋市が主体的になるべきではないかという気もしますが、それを豊川から始めるというところが、本当に意義深いと思います。ここのロータリークラブさんにも、非常に協力を頂いております。これから、

「オール愛知」に体制を拡大していければと期待しています。

先日、私に関わっている愛知大学人文社会学研究所で、答礼人形についてのシンポジウムを企画させて頂きました。シンポジウムの内容は、新聞記事にしてもらいましたので、お手元の資料をご覧ください。岐阜や三重の里帰り運動は、人形を展示するだけでなく、様々な形で展開していました。愛知では、テーマソングやミュージカルの演奏など様々なメディア展開をして、次世代に引き継げる形で進めていこうと考えています。ただ、若い人たちの参加がまだまだなので、これからの展開を考え中です。

青い目の人形は、アメリカの市民270万人が関わった運動です。答礼人形は、1銭募金を合わせると260万人の日本人が関わりました。当時の日本の人口は6千万人ぐらいなので、本当に国民的な運動でした。1920年代に、国連も国際連合でなく国際連盟の時代に、これだけの規模の平和目的の民間交流が太平洋を挟んで行われたことは奇跡的で、世界史的に見ても記憶されるべき事柄です。しかし、実際には日本人も余り知らない。日本人が知らないのだから、他の国の人たちは、殆ど知らない。それが残念だと思います。もちろん、530万人が築いたはずの両国の絆が、20年経たずに殺し合いに帰結していった歴史の事実と教訓も、ちゃんと引き継いで行くべきだと思います。青い目の人形と答礼人形をめぐるすべての歴史、その功績も悲劇も、私たちが受け継いで、未来に繋げていく責任があります。私自身も、ミス愛知の里帰り果たし、どのように次の世代に更に拡大し、平和と交流につなげていくか、そのことに少しでも力を尽くせればと思っています。ありがとうございました。

★ニコニコボックス

柴田 勝会員	農協人文化賞を受賞
浅野 晋会員	誕生日を祝って頂き
山本章吾会員	〃
岩瀬靖宏会員	〃
奥村雅一会員	事業所創業を祝って頂き
井指光基会員	〃

会報担当：中村嘉輝会員・中西弘徳会員